

平成31年度 北海道博物館 年度計画

平成31年3月
北海道博物館

目 次

1	資料の収集・保存	
(1)	資料の収集	1
(2)	収蔵機能の強化	1
(3)	資料保存環境の維持	1
(4)	収蔵資料の利用への対応	1
2	展示	
(1)	総合展示室の運営	1
(2)	企画展示の開催	2
(3)	アイヌ文化に関する展示事業【アイヌ研】	2
3	調査研究	
(1)	調査研究の推進	3
(2)	アイヌ文化に関わる調査研究の重点化【アイヌ研】	4
4	北海道開拓の村の整備	4
5	教育普及事業	
(1)	魅力あるイベントの充実	5
(2)	教材の充実	5
(3)	はっけん広場の運営	6
(4)	アイヌ文化に関わる教育普及事業【アイヌ研】	6
6	ミュージアムエデュケーター機能の強化	7
7	道民参加型組織の整備	7
8	施設及び周辺環境の整備	
(1)	館内施設の整備と活用	7
(2)	周辺環境の整備	7
(3)	野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進	7
9	広報	
(1)	広報活動の強化	7
(2)	赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携	8
10	評価制度の活用と利用者ニーズの把握	8
11	博物館ネットワーク	
(1)	各種博物館団体との連携	9
(2)	博物館交流の促進	9
12	情報発信	
(1)	アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信【アイヌ研】	9
(2)	ICTなどを活用した情報発信機能の強化	9
(3)	道民の「知りたい」気持ちへの支援	10

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】	10
13 人材育成機能の強化	
(1) 博物館実習生やインターンシップなどの受入れ	11
(2) 外来研究員の受入	11
(3) 派遣研修	11
14 研究成果の発信と社会貢献	
(1) 学術刊行物などの刊行	11
(2) 学会への発信	11
(3) 職員の対外貢献	11
(4) 外部機関との事業連携	11
(5) 道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献	11
(6) アイヌ文化研究の発信【アイヌ研】	12

以下については、平成27年度の北海道立総合博物館協議会の答申を受けて、平成28年度から年度計画の中に追加したものである。

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成	13
(2) 研究センター内の意思決定機関の育成	13
(3) 道庁の支援体制の育成	13

■別添資料 平成31年度アイヌ民族文化研究センター事業計画（抜粋）

1 展示事業	
1) 総合展示の運営	16
2) 特別展・企画展	16
3) 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展）の開催	16
2 調査研究事業	16
3 資料・情報の収集・整備事業	17
4 資料・情報等の公開・提供事業	
1) 資料の公開	17
2) 情報発信	
(1) 学術情報の集約	17
(2) 発信基盤の整備	18
(3) 学習・伝承活動への支援	18
5 成果の普及事業	
1) 教育普及	18
2) 研究成果の提供	18

別添

平成31年度 特別展・企画テーマ展計画	19
平成31年度 クローズアップ展示入れ替え計画	20
平成31年度 一般普及行事 年間計画	21

1 資料の収集・保存

(1) 資料の収集

- ・ 資料収集の方針に基づき、貴重なコレクションを含めた資料を収集する。
- ・ 収集した資料についての調査を実施し、整理・分類・登録した後、新規受入資料の写真撮影及び収蔵番号の注記作業等を進める。
- ・ 一括で寄贈を受けた貴重なコレクションについて目録の刊行に向けた作業を進める。
- ・ 貴重なコレクションを受け入れるにあたって、全体的な工程の再整備を進める。特に、収蔵資料の受入・登録に係る書類についてデータ整理のあり方を整備し、事務手続きの効率化を図る。

【判断数値】

- ・ 資料審査会の実施回数（12回）
- ・ 受入資料件数（300件）

(2) 収蔵機能の強化

- ・ 収蔵資料データベースの資料情報を速やかに登録するとともに、その後の資料移動の記録や公開情報の更新を含め、システムの円滑な運用を進める。
- ・ 災害発生時における被災資料の受入や保存処理などの機能・体制整備に向け、日本博物館協会などの動きと連動しながら、検討を進める。
- ・ 収蔵庫各室の用途見直しや資料の性質に応じた保存方法の検討などにより、収蔵スペースの確保に取り組む。

(3) 資料保存環境の維持

- ・ 温湿度管理、薬剤だけに頼らない方法による虫菌害防除対策（IPM）、災害対策、環境調査・清掃を徹底し、適切な資料保存環境の維持に努める。

【判断数値】

- ・ 資料収蔵環境管理等に関する連絡会議の開催数（12回）
- ・ IPMに関わる作業の実施回数（400回）

(4) 収蔵資料の利用への対応

- ・ 収蔵資料の特別観覧や刊行物などへの使用、道内外の博物館などへの貸出しに積極的に対応する。

【判断数値】

- ・ 特別観覧（収蔵資料の熟覧）承認申請数（50件）
- ・ 模写品等刊行等（収蔵資料の出版物等への写真・図版掲載）承認申請数（130件）
- ・ 資料貸出資料件数（20件）

2 展示

(1) 総合展示室の運営

- ・ 総合展示の定期的な入替えを実施する。
- ・ 総合展示室と特別展示室の相互利用を促進する展示手法を導入する。
- ・ すべての人が利用しやすい展示空間の整備に向けた検討を進める。
- ・ 総合展示のメンテナンスに努める。
- ・ 総合展示の防犯体制の見直しを進める。
- ・ 子どもの興味を喚起する展示手法を導入する。

総合展示室の利用者数（うち外国人利用者数）の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
総合展示室利用者数	72,400 人
うち外国人利用者数	4,000 人

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
総合展示室利用者数	362,000 人	429,247 人			
		149,046 人	108,374 人	80,519 人	91,308 人
うち外国人利用者数	19,000 人	16,813 人			
		3,301 人	4,417 人	4,836 人	4,259 人

【判断数値】

- ・ クローズアップ展示の件数（23 件）
- ・ 総合展示室の展示品の入替件数（40 件）

（2）企画展示の開催

- ・ 魅力的な企画展示を本庁、道内外の博物館、民間企業等と連携して開催する。
- ・ 研究成果を反映した展示、収蔵資料を積極的に公開する展示、及び道民参加型の企画展示を開催する。
- ・ 次年度以降の企画展示の計画、事前調査などの準備を進める。

特別展示室の利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
特別展示室利用者数	80,000 人

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
特別展示室利用者数	288,000 人	316,151 人			
		104,441 人	87,515 人	44,472 人	79,723 人

【判断数値】

- ・ 企画展の利用者数（80,000 人）
- ・ その他、館内外で実施する展示件数（2 件）

（3）アイヌ文化に関する展示事業 【アイヌ研】

ア 総合展示室の運営

以下の3点について、所管グループとの連携の下、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画に基づき、入替えを実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化Q & A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を具体的に定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替え

- ・ コーナー及び資料の種別に応じた入替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替えを実施する。
- ・ iPad を利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替えと連動した画像の追加・更新を実施する。

【判断数値】

- ① クローズアップ展示（クローズアップ展示3、4とも、各3回）
- ② アイヌ文化 Q&A（更新年間3回（質問6件））
- ③ 総合展示資料入れ替え
（衣服及び関連資料 4回、装身具・祭具等 1回、ノート等 1回）

イ 企画展示の開催

- ・ 平成31年度の第14回企画テーマ展「北の手仕事」を開催する。また、他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に応じて参画・協力をはかる。
- ・ 平成31年度に開催予定の特別展「アイヌ語地名と北海道（仮）」について、研究センターからチームに参画し、これまで研究センターにおいて収集・整理・公開してきた資料（山田文庫）等の活用、アイヌ語地名やアイヌ文化に関する内容の充実を図る。
- ・ 平成32年度以降の、アイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展や企画テーマ展の開催について、検討を継続する。

ウ 巡回展の開催

- ・ 平成31年度の巡回展を開催するとともに、平成32年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成30年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

【判断数値】

- ・ 第14回企画テーマ展の来場者数（7000人）
- ・ 企画テーマ展、巡回展ごとの満足度（96%）

3 調査研究

（1）調査研究の推進

- ・ 新規立ち上げを含め、「道民・地域との協働・連携による地域情報集積」プロジェクト5課題、「北海道の自然・歴史・文化」総合研究プロジェクト3課題を実施する。最終年度となる2課題について成果をまとめるとともに、次年度からの研究課題の立ち上げに向けて、早くから検討を行う。
- ・ 調査研究のあり方を検討し、研究推進を図る場として設置した「調査研究ワーキングチーム」等において、調査研究への道民参加の具体的仕組み作り、道民の研究成果の発表の場の確保の具体案について検討を進め、実現を図る。
- ・ サハリン州郷土博物館、ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究を継続して実施し、合せて友好関係を深める。5ヶ年の最終年にあたるサハリン州郷土博物館との共同研究については、成果をとりまとめ、報告書を刊行する。
- ・ 月1回の定例研究報告会を継続して実施する。外部講師の招へいを検討し、実現を図る。
- ・ 科学研究費補助金の継続・新規採択された研究課題について、研究成果を上げるとともに、館として取り組むべき研究課題のあり方について議論を進めつつ、新規課題の申請を積極的に行う。
- ・ その他の外部資金について、情報収集を行い、研究活動と合致するものを精査し、申請などの手続きを行う。

(2) アイヌ文化に関わる調査研究の重点化 【アイヌ研】

ア 調査研究事業

- ・ 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ・ 平成30年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ・ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。
- ・ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【判断数値】

- ・ 各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数
 - ① アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題4件）
 - ② アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題4件）
 - ③ 海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題2件）成果発表の目標値＝①②③併せて計4件
- ・ 科研等の補助金件数（4件）

イ 資料収集と整備

- ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成31年度までに完了させる計画を策定し、実施する。
- ・ 平成28年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。
- ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

【判断数値】

- ・ 新たに登録する資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消）（2資料群）
- ・ 収集する資料の件数（2件）
- ・ 資料の所在調査等の実施件数（10件）

ウ 資料公開

- ・ 資料公開手続きを再開（実施）する。
- ・ 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

【判断数値】

- ・ 公開する資料件数（5件）
- ・ 資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（20件）

4 北海道開拓の村の整備

- ・ 北海道開拓の村施設整備計画による歴史的建造物（旧武井商店酒造部、旧三ツ河本そば屋）補修工事を実施する（建設部）。
- ・ 北海道胆振東部地震で被害を受けた旧開拓使工業局庁舎などの歴史的建造物の改修工事を実施する。
- ・ 歴史的技術及び文化財補修法等に関する協議を建設部と行う。
- ・ 平成32年度北海道開拓の村施設整備計画を策定する。
- ・ 北海道開拓の村歴史的建造物の内部展示改修・改訂整備計画を策定する。

- ・ 北海道大学恵迪寮同窓会による札幌農学校寄宿舎（恵迪寮）北寮展示改修事業に協力する。

5 教育普及事業

（１）子ども向けの魅力あるイベントの充実

- ・ 「ハイライトツアー」や「ハンズオン」など、来館者が総合展示を楽しく観覧することができるように、総合展示室内で展示解説を実施する。
- ・ 子ども向けのイベント、入門的な体験型イベントなど、北海道の自然・歴史・文化を気軽に学ぶことができる行事を実施する。
- ・ 調査研究成果を活用し、北海道の自然・歴史・文化について、より深く学ぶことができる魅力ある講座・講演会を実施する。
- ・ 「グループレクチャー」や「はっけんプログラム」など、団体向けのプログラムを実施する。また、前年度に引き続き、学校教員を対象とした博物館の利用方法についての研修会を実施する。
- ・ 「ミュージアムフェスティバル」や「バックヤードツアー」など、博物館活動そのものに理解を深めてもらうための行事を実施するとともに、同目的の行事について、より多様な展開を検討する。
- ・ 利用者の満足度把握、各種事業終了後の運営・企画等についてさらなる見直しを行い、事業の改善・充実化につなげる。
- ・ 展示解説を要望する来館者の対応について、引き続き検討する。

イベントの参加者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
イベント参加者数	12,000 人

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
イベント参加者数	16,000 人	49,017 人			
		8,495 人	12,708 人	16,058 人	11,756 人

【判断数値】

- ・ ちゃれんが子どもクラブの実施件数／参加者数（13 件／550 人）
- ・ グループレクチャー実施件数／参加者数（中学生以下／全体）
（120 件／7,300 人（うち中学生以下 70 件／4,200 人））
- ・ はっけんプログラム実施件数／参加者数（220 件／7,000 人）

（２）教材の充実

- ・ 「クイズシート」や「ちゃれんがラリー」など、子どもをはじめとする来館者が総合展示の内容を楽しく学ぶことができる教材の開発について検討する。
- ・ より充実した多言語解説サービスのあり方について検討する。
- ・ 学校教員と連携を深め、学校教育にとってよりよい教材の開発について検討する。
- ・ 昨年度開発・公開した学校団体向けワークシートについて検証し、改善点を改善する。
- ・ ちゃれんがラリーの開発、多言語解説の充実化、プロモーションビデオの制作などが概ね実現したなかで、障がい者向けの教材開発なども含め、あらためてあらゆる利用者に対応した教材開発のあり方と活用方法を検討する。

- ・ 特に、昨年度から取り組みはじめた視覚障がい者にとって利用しやすくなる博物館づくりに向け、より具体的な施策、教材開発を進めていく。

(3) はっけん広場の運営

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした「はっけんキット」をもとに、来館者の自発的な発見を促すための空間として、はっけん広場を運営する。
- ・ はっけん広場をさらに魅力的な空間にする、「はっけんキット」の利用利便性を高めるなど、はっけん広場のさらなる充実化にむけた取組を継続して行なう。
- ・ はっけん広場において、学校団体などの団体利用者を対象に、北海道の自然・歴史・文化を楽しく学んでもらうための「はっけんプログラム」を実施する。
- ・ 子どもをはじめとする来館者が北海道の自然・歴史・文化を楽しく学ぶことができるように、体験型の「はっけんイベント」を実施する。
- ・ 北海道の自然・歴史・文化を対象とした、新たな「はっけんキット」の開発、より効果的な「はっけんプログラム」の充実を図る。
- ・ 館外への貸出し用の「はっけんキット」を整備するとともに、貸出制度を確立した後、貸出しを促進するための取組を進める。
- ・ 引き続きはっけん広場に対する利用者ニーズの把握に取り組むとともに、苦情や要望に対する対応手順を明確化し、はっけん広場の改善・充実化に結びつける。
- ・ はっけん広場の魅力を高めることはもちろん、館外への広報および来館者への周知を強化するとともに、来館者をはっけん広場に導く工夫を検討する。

はっけん広場利用者数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
はっけん広場利用者数	20,000 人

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
はっけん広場 利用者数	100,000 人	102,117 人			
		34,561 人	27,689 人	20,194 人	19,673 人

【判断数値】

- ・ はっけん広場利用者数（20,000 人）
- ・ はっけんプログラムの実施件数（220 件）
- ・ はっけんイベント参加者数（2,700 人）
- ・ はっけんキットの貸出し件数（10 件）

(4) アイヌ文化に関わる教育普及事業 【アイヌ研】

- ・ 平成 30 年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ・ グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【判断数値】

- ・ グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係 40 件）
- ・ はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係 80 件）
- ・ 上記以外に行う館内イベント件数（4 件）

6 ミュージアムエデュケーター機能の強化

- ・ 館内外での研修会などへの参加を通じて、博物館の教育普及活動に必要な、職員の専門的知識及び技能の向上を図る。
- ・ 館外での研修で得た知識および技能を館内で共有する仕組みづくりを進める。
- ・ より効果的な学校団体の利用を促進するために、教員などを対象とした研修会や意見交換会を実施する。

【判断数値】

- ・ 博物館の教育普及活動に必要な知識・技術向上を図る研修会などへの参加職員数（4件7人）
- ・ 当館が実施する教員対象の研修会への参加人数（40人）

7 道民参加型組織の整備

- ・ 第1期計画「ミュージアム・パートナー」（仮称）の事業を実施する。また、同パートナーによる博物館運営等の諮問的な組織を設置する（館長との意見交換の場）。
- ・ 道民参加の促進に向け、北海道立総合博物館を支援する組織体制の強化を図る。
- ・ 道民参加型の展示事業を検討し、推進をはかる。

8 施設及び周辺環境の整備

（1）館内施設の整備と活用

- ・ アメニティ施設の充実に向け、指定管理者を含め、内部検討を進める。
- ・ オリジナルグッズの開発に向けた取組を進める。
- ・ 記念ホール等の活用の一層の推進のため、「博物館施設活用基準（仮称）」等の検討・策定を行う。

（2）周辺環境の整備

- ・ サインの統一化について、森林公園内土地所有者（国有林、道有林）と野幌森林公園管理運営協議会等の場で検討を進める。
- ・ 屋上スカイビューは、4月29日から9月23日までの祝日開館日の10:00～16:00に開放する。

（3）野幌森林公園内施設との一体的な取組の推進

- ・ ホームページの運営など一体的な広報活動をはじめ、北海道博物館、北海道開拓の村、野幌森林公園自然ふれあい交流館の連携に向けた取組を進める。

【判断数値】

- ・ 連絡会議の実施件数（12件）
- ・ 一体的に行う広報の件数（10件）

9 広報

（1）広報活動の強化

- ・ あらゆる広報媒体を活用し、職員全員で積極的な広報活動を展開する。
- ・ 各媒体からの照会に伴う広報を継続しつつ、戦略的に働きかけていく広報体制を強化し、実践する。
- ・ 広報誌『森のちやれんがニュース』を4回（第16～19号）、行事あんないを2回（2019年度後期／2020年度前期）刊行する。
- ・ 海外に向けた情報発信を強化する。
- ・ 修学旅行を含め、学校団体の誘致をはかる。
- ・ 北海道博物館プロモーションビデオをさまざまな機会・場所で積極的に活用し、利用者促進に結びつける。

- ・ 愛称「森のちゃれんが」とロゴマークを積極的に当館発行の広報媒体やサインなどに活用するとともに、他機関の媒体においてもその発信を働きかけ、道民への浸透を図る。
- ・ 平成 30 年度要覧を刊行する。

ホームページのアクセス数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
ホームページのアクセス数（トップページ）	250,000 件

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
ホームページの アクセス数 （トップページ）	395,000 件	920,345 件			
		270,758 件	219,491 件	200,591 件	229,505 件

【判断数値】

- ・ 入館者数／うち外国人（100,000 人／うち外国人 5,200 人）
- ・ 学校団体の利用者数／件数（25,000 人／350 件）
- ・ 広報媒体の件数（220 件）
- ・ 愛称およびロゴマークの活用件数（10 件）
- ・ ホームページのアクセス数（250,000 件）

（2）赤れんが庁舎の活用及び他機関との連携

- ・ イベント紹介コーナーの計画的な更新、利用者と直に接する広報活動の展開などを含め、「北海道博物館赤れんがサテライト」を活用した積極的な広報活動を展開する（平成 31 年度は 10 月 1 日より改修工事で閉館となるため、9 月 30 日まで）。
- ・ 10 月～12 月の間に、「北海道博物館赤れんがサテライト」の資料や物品を撤収する。
- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」の運営が、どれだけ北海道博物館への誘客へとつながってきたのか、総括する。
- ・ 「サイエンスパーク」や「かるちゃん net」など他機関との連携事業に積極的に参画し、利用者と直に接する広報活動を展開する。

【判断数値】

- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」で提供する情報の更新回数（5 回）
- ・ 「北海道博物館赤れんがサテライト」における利用者と直に接する広報活動の回数（10 回）

10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握

- ・ 北海道立総合博物館協議会（2 回）と専門部会（1 回）などの実施と運営を行う。
- ・ 第 1 期中期目標・計画期の外部評価及び平成 31 年度内部評価を実施する。
- ・ アンケート調査によるオーディエンス・リサーチを実施するとともに、その他の方法によるリサーチ実施のための検討をすすめる。
- ・ 第 2 期中期目標・計画策定に合わせ、評価制度の見直し検討を行う。

利用者の満足度の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
利用者満足度	80 パーセント

(参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月)

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
利用者満足度	70%	92.07%（平均値）			
		85.3%	95.5%	96.1%	91.4%

1.1 博物館ネットワーク

(1) 各種博物館団体との連携

- ・ 日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会などとの連携により、北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす。
- ・ 全国歴史民俗系博物館協議会の 2018～2019 年度代表幹事館として、北海道博物館を会場に開催予定の年次集会を、同協議会事務局と連携して実施する。
- ・ 北海道博物館協会事務局を通じて、地域ブロック別や館種別の組織の活動を積極的に支援する。

(2) 博物館交流の促進

- ・ 地域の博物館、図書館、教育委員会などと連携し、共同研究、共同事業などを通じて地域との協働・交流を促進する。
- ・ 北海道博物館や道内各地における、道内の博物館職員を対象とした博物館学系の研修会の実施に向けた検討を進める。

道内市町村等との連携・協力件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
道内市町村等との連携・協力件数	40 件

(参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月)

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
道内市町村等との 連携・協力件数	200 件	143 件			
		38 件	36 件	30 件	39 件

1.2 情報発信

(1) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信 【アイヌ研】

ア 学術情報の集約

- ・ 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

イ 発信基盤の整備

- ・ 北海道博物館ウェブサイト全体の中にアイヌ民族文化研究センターからの情報発信等を位置付ける（具体的には旧センターウェブサイトのコンテンツの移行や、今後の新たな情報発信に向けたさまざまな設定等）。
- ・ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備・運用を引き続き進める。

(2) ICT などを活用した情報発信機能の強化

- ・ 北海道博物館の収蔵資料、図書、刊行物に関するデータの整備作業を引き続き進め、インターネット上での公開に向けた取組を進める。

- ・ ウェブサイトおよびツイッターを運営し、館内の多様な情報を発信する。
- ・ ソーシャルメディアについては利用者の反応の分析を行い、発信の仕方を見直すことで情報発信力の一層の強化につなげる。
- ・ 平成 32 年度に予定されている情報システム更新時に情報発信機能をどのようにするのか、そのあり方について引き続き検討を行う。

(3) 道民の「知りたい」気持ちへの支援

- ・ 北海道の自然・歴史・文化に関わる道民向け蔵書の充実化を進め、図書室での利用を促進する。
- ・ 図書室の開架部分のレイアウトや表示等を工夫し、一般来館者が気軽に利用しやすい環境を整備する。企画展等に関連した図書展示に加え、総合展示の理解を深めるための図書の展示を充実させる。
- ・ 図書の収集・廃棄方針を整備し、不足する分野の収集に努めるとともに、利用見込みのない図書の廃棄を進めて書庫利用の効率化を図る。
- ・ レファレンス記録率の一層の向上を目指して記録票記入を引き続き呼びかけ、レファレンス内容について館内で情報を共有化する取り組みを引き続き進める。

来館しない利用者による利用件数の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
写真の提供件数	70 件
レファレンス件数	800 件
アンケート、その他の利用件数	100 件

(参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月)

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
写真の提供件数	350 件	433 件			
		132 件	98 件	112 件	91 件
レファレンス件数	4,000 件	1,284 件			
		280 件	203 件	392 件	409 件
アンケート、 その他の利用件数	500 件	71 件			
		12 件	13 件	30 件	16 件

【判断数値】

- ・ 写真の提供件数（70 件）
- ・ レファレンス件数（800 件）
- ・ アンケートその他の利用件数（100 件）

(4) アイヌ文化に関する学習や伝承活動の支援 【アイヌ研】

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成 31 年度は次の 2 点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
 - ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を引き続き定期的に共有し、対応力の向上を図る。

【判断数値】

- ・ レファレンス件数（100 件）
- ・ 他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）（2 件）

1 3 人材育成機能の強化

（1）博物館実習生やインターンシップなどの受入れ

- ・ 博物館実習（館務実習）を夏季に 1 回実施する。
- ・ 博物館実習（見学実習）やインターンシップを積極的に受け入れる。
- ・ 教員を目指す学生が博物館の活用方法について学ぶ機会を創出するため、大学などの授業や研修の講師として当館の職員を積極的に派遣する。

【判断数値】

- ・ 博物館実習の受入件数（4 件）
- ・ インターンシップの受入件数（6 件）

（2）外来研究員の受入

- ・ 引き続き外部研究者や大学院生などの外来研究員等としての受入に関する規定類の整備などの検討や他館の現況調査などを行い、制度の枠組みの立案をはかる。

（3）派遣研修

- ・ 外部機関が開催する、博物館学系（特に展示や普及教育など）の研修会等に当館職員を参加させる。

【判断数値】

- ・ 博物館学系研修会や技術研修会への参加件数（4 件）

1 4 研究成果の発信と社会貢献

（1）学術刊行物などの刊行

- ・ 『北海道博物館研究紀要』『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号を刊行する。
- ・ 研究紀要のウェブサイト上での公開を進めるとともに、旧開拓記念館の学術刊行物等についても遡及して著作権等の処理を進め、可能なものから順次、電子媒体での公開を進める。
- ・ 特別展の開催に合わせて展示図録を刊行する。
- ・ 企画テーマ展の開催に合わせて解説パンフレットを刊行する。

（2）学会への発信

- ・ 学芸職員による積極的な学会等での発表を促進するとともに、研究グループないし北海道博物館としての研究成果発信のあり方や方法について継続的に検討を進める。

（3）職員の対外貢献

- ・ 各種委員や非常勤講師等への就任、共同研究等への参画、講演会・講座等への講師の派遣、その他専門的知見の提供など、外部機関の活動に対して積極的に協力する。

（4）外部機関との事業連携

- ・ 引き続き、各市町村や民間企業等と連携・共同して行う事業を推進するとともに、外部機関の事業への協力や後援等を積極的に行う。

（5）道民の豊かな暮らしづくり・北海道の未来づくりへの貢献

- ・ 政策事業の推進と実施を積極的に行い、中核的な博物館としての役割を担う。
- ・ 第 2 期中期目標・計画（平成 32～36 年度）を策定する。
- ・ 「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」の実施に向けた検討を進める。
- ・ ユニバーサル・ミュージアムに対応した博物館活動を検討し、実施する。実施にあたっては、文化庁などからの外部資金の獲得を目指す。

- ・ 北海道の自然・歴史・文化を総合的に研究する機関として、北海道が抱える諸問題の解決に貢献するための取組を進める。

社会貢献の目標値は、次のとおりとする。

設 定 内 容	目標値（平成 31 年度）
新聞・報道対応の件数	計 180 件
学会発表の件数	
学術雑誌等への寄稿の件数	
招待講演の件数	
各種委員・共同研究員等委嘱の件数	
その他の件数	

（参考：中期目標値 実績数：平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）

設定内容	目標値（5年間）	実績数（平成 27 年 4 月～平成 31 年 1 月）			
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 （～1 月）
社会貢献件数合計	900 件	1,648 件			
		318 件	554 件	480 件	296 件
新聞・報道対応の件数		896 件			
		128 件	343 件	310 件	115 件
学会発表の件数		125 件			
		43 件	25 件	24 件	33 件
学術雑誌等への寄稿の件数		128 件			
		32 件	45 件	23 件	28 件
招待講演の件数		265 件			
		68 件	60 件	65 件	72 件
各種委員・共同研究員等委嘱の件数		144 件			
		38 件	43 件	35 件	28 件
その他の件数		90 件			
		9 件	38 件	23 件	20 件

（6）アイヌ文化研究の発信 【アイヌ研】

- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第 5 号を刊行する。
- ・ 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。
- ・ 『アイヌ文化紹介小冊子』の配布・活用を図るとともに、小冊子収録の学習情報をウェブサイトに掲載する。またウェブサイト上において、新たに学習のための情報を随時掲載していく枠組みを策定する。
- ・ 北海道博物館の広報誌「ちやれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【判断数値】

- ・ 「ちやれんがニュース」の記事数（4 件）
- ・ 他機関の機関紙等での記事の掲載数（2 件）
- ・ 道内市町村等との連携・協力件数（2 件）
- ・ 新聞・報道対応件数（5 件）
- ・ 講演依頼件数（8 件）
- ・ 各種委員への就任件数（8 件）

【外部評価項目】ガバナンス体制の育成

(1) 館内の意思決定機関の育成

- 意思決定機関としての機能をより高めるため、懸案事項等の常時把握などにより協議事項の洗い出しを行うとともに、運営会議のスムーズな運営のため特に資料のスリム化等を徹底する。
- 博物館の課題等について、本庁と情報を共有し適切な連携のもと解決を図るため、定期的な打合せを行うなどして文化振興課との連携を強化する。
- 事業の着実な推進を図るため、より実効的な懸案事項の整理方法を検討し、重要かつ優先的に取り組む事業について予算要求へつなげるとともに、運営会議の場等における進捗管理を適切に行う。
- 博物館事業に対する理解の促進と道内外の関係機関への PR を図るため、視察対応の一層の充実が必要であり、より柔軟な受け入れ体制の整備を進める。

(2) 研究センター内の意思決定機関の育成【アイヌ研】

- アイヌ民族文化研究センターの運営・事業推進に係る検討の場について、次の通り計画し、運営にあたる。
 - ① 調査研究等の基本方針については、館の運営会議以下の各検討会議を踏まえつつ、館内でアイヌ民族文化担当副館長、センター長、研究主幹及び非常勤研究職員による検討会議を随時開催する。
 - ② 研究センター職員による会議を引き続き定期的に行き、その際参集できない職員についても持ち回りなどによる情報共有を確保する。
 - ③ 研究センターとしての会議や研究業務を円滑に実施できるよう、学芸部・総務部業務との整合性を図れる時間配分を措置する。

(3) 道庁の支援体制の育成

- 博物館の課題について、情報の共有化を図り、適切な連携のもと、解決を図る。
- 赤れんが庁舎のリニューアルに向けて、平成 31 年 9 月末に赤れんが庁舎が閉鎖されることから、「北海道博物館赤れんがサテライト」の撤去や、リニューアル後の歴史・文化に係る展示について、関係課や博物館と調整し、取り組んでいく。
- 「ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想」について、構想策定後は、その実現に向けて様々な取組を進めていくことになるが、博物館と役割分担を行った上で、互いに連携協力して取り組んでいく。

【別添資料】

平成３１年度アイヌ民族文化研究センター
事業計画（抜粋）

1 展示事業

1) 総合展示の運営

以下の3点について、所管グループとの連携の下、実施する。

① クローズアップ展示の運用

- ・ 第2テーマのクローズアップ展示3、4について、分野のバランスや総合的な視点を踏まえた計画に基づき、入替えを実施する。
- ・ 他テーマのクローズアップ展示にも、適宜、参加・協力を検討していく。
- ・ 展示の準備から設置までを円滑に行うため、シナリオ及び資料の事前検討などを計画的に行う。

② 「アイヌ文化Q&A」コーナーの運用

- ・ 更新の計画を具体的に定め、定期的な更新を実施する。

③ 展示資料の定期的な入替え

- ・ コーナー及び資料の種別に応じた入替え計画に基づき、衣服・装身具及び筆録ノート等の入替えを実施する。
- ・ iPadを利用して過去に展示してきた衣服（晴れ着）を紹介する展示について、資料の入替えと連動した画像の追加・更新を実施する。

【判断数値】

- ① クローズアップ展示（クローズアップ展示3、4とも、各3回）
- ② アイヌ文化Q&A（更新年間3回（質問6件））
- ③ 総合展示資料入替え
（衣服及び関連資料 4回、装身具・祭具等 1回、ノート等 1回）

2) 特別展・企画展

- ・ 平成31年度の第14回企画テーマ展「北の手仕事」を開催する。また、他の研究グループが主管する企画テーマ展についても、内容に応じて参画・協力をはかる。
- ・ 平成31年度に開催予定の特別展「アイヌ語地名と北海道（仮）」について、研究センターからチームに参画し、これまで研究センターにおいて収集・整理・公開してきた資料（山田文庫）等の活用、アイヌ語地名やアイヌ文化に関する内容の充実を図る。
- ・ 平成32年度以降の、アイヌ文化に関連したテーマ・内容での特別展や企画テーマ展の開催について、検討を継続する。

3) 道内市町村での資料展（アイヌ文化巡回展）の開催

- ・ 平成31年度の巡回展を開催するとともに、平成32年度以降の開催計画を策定する。策定に当たっては、平成30年度までと同様、地域の選択や関連して実施する事業に配慮する。

【判断数値】

- ・ 第14回企画テーマ展の来場者数（7000人）
- ・ 企画テーマ展、巡回展ごとの満足度（96%）

2 調査研究事業

ア 調査研究事業

- ・ 「アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト」「アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト」の2つのプロジェクトを、それぞれの個別課題に沿って進める。
- ・ 平成30年度で終了する個別課題について、その成果を踏まえた事業展開（展示等への成果反映、新たな課題設定等）を検討し、実施する。
- ・ ロシア・サハリン州郷土博物館及びカナダ・ロイヤルアルバータ博物館との共同研究について、アイヌ文化研究において内在する課題と、海外共同研究との整合性や棲み分けを意識し、「博物館における先住民族文化の研究・展示・資料のあり方」「アイヌ民族文化

のサハリン・北海道諸地域の地域差の比較検討」「近現代を生きたサハリン（樺太）アイヌの足跡」等の課題のあり方を検討していく。

- ・ 総合的な調査研究や展示等の成果発表の充実に繋がる資金の獲得を目指す。

【判断数値】

- ・ 各プロジェクトごとの研究課題の件数と成果発表等の件数
 - ①アイヌ文化に関する資料・情報の集積プロジェクト（研究課題 4 件）
 - ②アイヌ文化に関する総合的・学際的研究プロジェクト（研究課題 4 件）
 - ③海外博物館等との共同研究プロジェクト（研究課題 2 件）
- 成果発表の目標値＝①②③併せて計 4 件
- ・ 科研等の補助金件数（4 件）

イ 資料収集と整備

- ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成 31 年度までに完了させる計画を策定し、実施する。
- ・ 平成 28 年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。
- ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

【判断数値】

- ・ 新たに登録する資料の件数（＝未処理のままの資料の残数の段階的解消）
（2 資料群）
- ・ 収集する資料の件数（2 件）
- ・ 資料の所在調査等の実施件数（10 件）

ウ 資料公開

- ・ 資料公開手続きを再開（実施）する。
- ・ 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

【判断数値】

- ・ 公開する資料件数（5 件）
- ・ 資料閲覧件数（文書、音声・映像、民具ごと）（20 件）

3 資料・情報の収集・整備事業

- ・ 未整理資料の整理・データ登録・配架について平成 31 年度までに完了させる計画を策定し、実施する。
- ・ 平成 28 年度に受け入れたキーステン・レフシン資料等の整理を進める。
- ・ 研究プロジェクト（個別研究課題）や巡回展等の事業計画の中に資料の所在調査、情報収集等を位置づける。

4 資料・情報等の公開・提供事業

1) 資料の公開

- ・ 資料公開手続きを再開（実施）する。
- ・ 公開計画の再策定と年間公開点数の増加を図る。

2) 情報発信

(1) 学術情報の集約

- ・ 収蔵資料のデータ整備を行う。
- ・ 北海道がこれまでに実施してきたアイヌ文化に関する調査事業の成果や調査データの集約に向け関係機関との協議を進め、データ提供に向けた情報整備を進める。

(2) 発信基盤の整備

- ・ 北海道博物館ウェブサイト全体の中にアイヌ民族文化研究センターからの情報発信等を位置付ける（具体的には旧センターウェブサイトのコンテンツの移行や、今後の新たな情報発信に向けたさまざまな設定等）。
- ・ 「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」の整備・運用を引き続き進める。

(3) 学習・伝承活動への支援

- ・ 博物館・研究機関としての役割を踏まえた支援ができるよう、調査研究を着実に進め、所蔵資料を整理し、発信・提供できる成果や情報を充実させる。平成31年度は次の2点を実施する。
 - ① ホームページでの情報の追加や更新の体制を定め直し、情報発信を再開する。
 - ② レファレンス対応の記録票に基づき、これらの情報を引き続き定期的に共有し、対応力の向上を図る。

【判断数値】

- ・ レファレンス件数（100件）
- ・ 他機関、団体への学習・伝承支援件数（講師、情報提供等）（2件）

5 成果の普及事業

1) 教育普及

- ・ 平成30年度に引き続き、館で行う講演会・講座や、その他の教育普及事業及び巡回展などで実施する関連事業について、内容や効果を分析し、効果的・体系的な開催につなげる。
- ・ グループレクチャーの充実を図るため、情報交換と内容検討の機会を設ける。

【判断数値】

- ・ グループレクチャーの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係40件）
- ・ はっけんプログラムの実施件数（全体数とアイヌ関連件数）（アイヌ関係80件）
- ・ 上記以外に行う館内イベント件数（4件）

2) 研究成果の提供

- ・ 『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第5号を刊行する。
- ・ 調査研究課題の成果を反映させる展示会等の計画を検討していく。
- ・ 『アイヌ文化紹介小冊子』の配布・活用を図るとともに、小冊子収録の学習情報をウェブサイトに掲載する。またウェブサイト上において、新たに学習のための情報を随時掲載していく枠組みを策定する。
- ・ 北海道博物館の広報誌「ちゃれんがニュース」等を通じてアイヌ民族文化研究センターの活動をわかりやすく発信する。

【判断数値】

- ・ 「ちゃれんがニュース」の記事数（4件）
- ・ 他機関の機関紙等での記事の掲載数（2件）
- ・ 道内市町村等との連携・協力件数（2件）
- ・ 新聞・報道対応件数（5件）
- ・ 講演依頼件数（8件）
- ・ 各種委員への就任件数（8件）

2019年度 特別展・企画テーマ展・外部持ち込み展計画

	第14回企画テーマ展	ニュージージーランドマオリ美術工芸学校日本巡回展	第5回特別展	第12回企画テーマ展	第13回企画テーマ展
タイトル	北の手仕事	TUKU IHO 受け継がれるレガシー	アイヌ語地名と北海道	エゾシカ (仮)	北海道神宮 (仮)
会 期	4月27日 (土) ~6月9日 (日)	4月27日 (土) ~5月14日 (火) ※ワークショップを含めたグラントオープンは5月1日 (水)	7月6日 (土) ~9月23日 (祝・月)	10月12日 (土) ~12月15日 (日)	2月8日 (土) ~4月5日 (日)
チー ム	大坂ほか アイヌG		全研究G	水島ほか 自然G、歴史G、博物館G	生活G、アイヌG、歴史G、自然G
概 要	人々を惹き付けるアイヌの民族衣装。その美と技は、今も学び受け継がれ、広がりを続けている。 北海道各地の現代の作り手による作品を、作者のメッセージも添えて紹介します。	世界の国々を巡回する、ニュージージーランドの先住民族・マオリの工芸展が、この春、北海道博物館にやってきました。マオリ美術工芸協会の教師と生徒による、彫刻や織物などの工芸作品の展示と、カパ・ハカ (パフォーミング・アート) 公演や芸術のワークショップを通して、マオリの芸術と文化を体験してください！	北海道の地名の多くは、アイヌ語に由来します。江戸時代の地図に示るされた地名、明治~平成の風景が物語る地名のうつりかわり、アイヌ語地名研究の第一人者・山田秀三による調査の記録など、さまざまな資料を紹介し、〈地名〉をとおり北海道を見つめます。		
備 考		主催：ニュージージーランドマオリ工芸学校			

2019年度(平成31年度)クローズアップ展示
入れ替え計画

				2019					2020								
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
				4月13日(土)～8月16日(金)					8月17日(土)～12月18日(水)					12月21日(土)～4月10日(金)			
				4月13日(土)～6月7日(金)	6月8日(土)～8月16日(金)					8月17日(土)～10月11日(金)	10月12日(土)～12月18日(水)					12月21日(土)～2月14日(金)	2月15日(土)～4月10日(金)
1				『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む(1)	【特別展開連】古地図・絵図からさぐるアイヌ語地名					『蝦夷風俗十二ヶ月屏風』を読む(2)					北のシルクロード・サンタン交易と蝦夷錦		
				19世紀中ごろのアイヌ民族の一年間の生活のうつりかわりや、場所請負制のもとで愛わりつつあるアイヌ民族の様子を描いた屏風を展示します。(東) ※1～6月を描いた右隻を展示します。	アイヌ語地名研究者・山田秀三が収集した古地図や絵図などから、アイヌ語地名をさぐります。(東) ※8月16日(金)に展示替えを行う。					19世紀中ごろのアイヌ民族の一年間の生活のうつりかわりや、場所請負制のもとで愛わりつつあるアイヌ民族の様子を描いた屏風を展示します。(東) ※7～12月を描いた左隻を展示します。					中国からアムール川、サハリン(樺太)を経て蝦夷地へもたらされた蝦夷錦の来た道＝北のシルクロードとサンタン人の交易活動について紹介します。(東)		
2				松浦武四郎の蝦夷日誌を読む	【特別展開連】松浦武四郎の地図からさぐるアイヌ語地名					新選組の元幹部隊士 永倉新八					新着資料紹介(仮)		
				蝦夷地を6回にわたって踏査した幕末の志士・松浦武四郎が作成した地図から、アイヌ語地名をさぐります。(三浦) ※8月16日(金)に展示替えを行う。	蝦夷地を6回にわたって踏査した幕末の志士・松浦武四郎が作成した地図から、アイヌ語地名をさぐります。(三浦) ※8月16日(金)に展示替えを行う。					江戸時代おわりごろの京都で、幕府に敵対する志士などをとりまわった新選組。その幹部隊士の一人であった、永倉新八ゆかりの資料について紹介します。(三浦)					近年、北海道博物館に寄贈された文書資料や記録資料、美術資料について紹介します。博物館資料に新しく仲間入りのモノたち5のお披露目です。(三浦)		
3				祈りの造形―死者を悼む(2)死者用の靴	【特別展開連】アイヌ語地名研究者・山田秀三の葉書から					アイヌ文化への関心が高まっていた1980年代。関東では、アイヌと和人が共に学び合うアイヌ語の勉強会が行われていました。ここではそうした勉強会の資料を紹介します。(大谷、田村)					関東におけるアイヌ語勉強会のようす -1980～2000年-		
				アイヌ民族の伝統的なお葬式でも、亡くなった人に着せる様々な装束が用意されています。今回は、そんな装束の中から靴を取りあげて、特徴や地域による違いを紹介します。(大坂)	山田秀三氏が地名調査先で土地の様子を描いて妻・総子(ふさこ)に送った葉書や、ゆかりの方々に送った年賀状を紹介します。(小川)					アイヌ文化への関心が高まっていた1980年代。関東では、アイヌと和人が共に学び合うアイヌ語の勉強会が行われていました。ここではそうした勉強会の資料を紹介します。(大谷、田村)					アイヌ文化への関心が高まっていた1980年代。関東では、アイヌと和人が共に学び合うアイヌ語の勉強会が行われていました。ここではそうした勉強会の資料を紹介します。(大谷、田村)		
4				サハリン(樺太)アイヌの近現代史	【特別展開連】アイヌ語地名研究者・山田秀三の、アイヌ文化の記録や保存への関わり					モノから見るアイヌ文化―耳飾りのいろいろ					モノから見るアイヌ文化―耳飾りのいろいろ		
				「アイヌの文化」「アイヌの歴史」と言うとき、北海道が中心になりがちで、サハリンや千島のことは十分とは言えません。今回はサハリンのアイヌ民族をとりあげます。(小川)	アイヌ無形文化伝承保存会の設立への参画や、アイヌ文化資料館の設立への尽力など、山田秀三氏とアイヌ文化の記録や保存、継承に向けた事業や活動との関わりを紹介します。(遠藤、大谷)					アイヌの人々が装身具として身につけていた耳飾り。形や大きさ、飾りの素材や模様には違いが見られます。北海道博物館所蔵のさまざまな耳飾りについて紹介します。(亀丸)					アイヌの人々が装身具として身につけていた耳飾り。形や大きさ、飾りの素材や模様には違いが見られます。北海道博物館所蔵のさまざまな耳飾りについて紹介します。(亀丸)		
5				遺産子のブラジル移住100周年	岩手県から北海道へ渡った神楽					看板あれこれ(仮)					看板あれこれ(仮)		
				北海道からブラジルへの移住は、1918(大正7)年が最初でした。2019年は、北海道からの移住100周年です。北海道出身の移住者による寄贈資料をもとに、移住当時の苦労と日系人の文化について紹介します。(山際)	二セコ町の狩太神社には、岩手県から伝承した神楽がありました。すでに途絶えた神楽ですが、獅子頭や面などの道具をとおして、かつての神楽を紹介します。(舟山)					北海道の経済・産業の発展にともなって、さまざまな形・素材の看板が作られ、街を彩ってきました。当館コレクションの中から、多様な商業看板を紹介します。【仮】(金田)					北海道の経済・産業の発展にともなって、さまざまな形・素材の看板が作られ、街を彩ってきました。当館コレクションの中から、多様な商業看板を紹介します。【仮】(金田)		
6				おまごとの世界	たくぎん(北海道拓殖銀行)					「すまい」を彩るタイル(仮)					「すまい」を彩るタイル(仮)		
				子どもも大人もときめく、おまごとの道具たち。かまどからガスコンロへ、木やブリキからプラスチックへと、その形や素材には使われた時代の暮らしぶりが反映されています。ここでは、当館所蔵のおまごとの道具を紹介します。(尾曲)	1998(平成10)年に看板を下ろした北海道拓殖銀行。当館収蔵庫のなかから、北海道に暮らした人たちにとって懐かしいものを選んで紹介します。(山田、金田)					北海道のすまいにおいて、外装から内装まで様々な機能を持ちつつ、装飾としても住宅に彩りを与えてきた北壁タイル。その種類・機能などを紹介します。(鈴木明)					北海道のすまいにおいて、外装から内装まで様々な機能を持ちつつ、装飾としても住宅に彩りを与えてきた北壁タイル。その種類・機能などを紹介します。(鈴木明)		
7				昆虫から見る生物多様性	【特別展開連】北海道の地名にちなむ植物					北海道にのいるのいないの？モグラの仲間					北海道にのいるのいないの？モグラの仲間		
				昆虫を例に生物多様性の3つのレベルを分かりやすく紹介します。(堀)	動物や植物の名前には、地名にちなむものも少なくありません。北海道博物館が所蔵する植物標本の中から、和名や学名に北海道の地名を含む植物を紹介します。					土の中にトンネルを作っている生き物というイメージが根深い、モグラ。実際に見たところのある人は意外と少ないかもしれません。北海道にはどんなモグラの仲間がいるのか、掘り下げてみましょう！(鈴木あずみ)					土の中にトンネルを作っている生き物というイメージが根深い、モグラ。実際に見たところのある人は意外と少ないかもしれません。北海道にはどんなモグラの仲間がいるのか、掘り下げてみましょう！(鈴木あずみ)		

※12月19、20日は大掃除のため休館

特別展・企画 テーマ展	北の手仕事 4/27(土)～6/9(日)	北海道の地名 7/6(土)～9/23(祝・月)	エジソン 10/12(土)～12/15(日)	北海道 神宮 2/8(土)～4/5(日)
	マオリ展 4/27(土)～5/14(火)？			

平成31年度 一般普及行事 年間計画

カテゴリー	名称（25字以内）	開催日時						担当・講師	会場・実施場所	対象	定員	内容（広報用50字）
		月	日	曜日	開始時間	終了時間						
ミュージアムカレッジ	北蝦夷地ウシヨロ場所物語	4月	7日		13:30	15:30	東俊佑	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	1860年代のサハリン西海岸ウシヨロ場所のアイヌ支配をめぐる日露の争いについて、史料を基にお話します。	
自然観察会	エゾアカガエルのラブコールを聴こう	4月	13日	土	10:00	12:00	堀繁久・水島末記・表溪太・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	野幌森林公園内（自然ふれあい交流館集合）	どなたでも	40名（先着）	雪どけの時期にしか聴けないエゾアカガエルの歌声に耳をかたむけ、早春の花たちを観察しよう。	
子どもワークショップ	アイヌ音楽 うたおう・おどろろ・ならそう・ひこ	4月	13日	土	13:30	15:00	甲地利恵	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	20名（先着）	アイヌの歌や踊りや楽器を、ちょっとずつ、体験します。歌うこと踊ることが好きな子、集まれ～！	
古文書講座	はじめての古文書講座（全3回）第1回【入門編】	4月	14日	日	13:30	15:30	東俊佑	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	古文書が全く読めない！という方にオススメの入門講座。練習問題を解きながらくずし字を基礎から学びます。	
古文書講座	古文書に親しむ（全3回）第1回【実践編】	4月	21日	日	13:30	15:30	三浦泰之	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	くずし字判読の基礎を卒業した方のための初級講座。当館所蔵の古文書などをゆっくり、じっくり読んでみます。	
子どもワークショップ	博物館を建てる「モノ」のオリジナル図鑑をつくろう！	5月	11日	土	13:30	15:00	鈴木明世・村上孝一	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	10名（先着）	北海道博物館の建物をつくるモノ・素材の模様を写しとり、自分だけのオリジナル図鑑をつくりましょ！	
古文書講座	はじめての古文書講座（全3回）第2回【入門編】	5月	12日	日	13:30	15:30	東俊佑	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	古文書が全く読めない、という方にオススメの入門講座です。用例や練習問題を解きながら、くずし字を基礎から学びます。	
自然観察会	アイヌの人びとが利用した植物	5月	18日	土	10:00	12:00	水島末記・堀繁久・表溪太・大坂拓	野幌森林公園内（講堂集合）	どなたでも	40名（先着）	新緑の森を歩いて、アイヌの人びとが食べ物や衣服として利用した植物を探しましょう。	
古文書講座	古文書に親しむ（全3回）第2回【実践編】	5月	19日	日	13:30	15:30	三浦泰之	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	くずし字判読の基礎を卒業した方のための初級講座。当館所蔵の古文書などをゆっくり、じっくり読んでみます。	
講演会	アイヌの手仕事～衣文化をさぐる～	5月	25日	土	13:30	15:30	津田命子氏（アイヌ服飾研究家）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	アイヌ民族の衣服づくりの継承と技法の研究とに長年にわたり実践的に取り組んできた成果をお話していただきます。	
ミュージアムカレッジ	100年前の北海道と朝鮮半島	6月	2日	日	13:30	15:30	山田伸一	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	100年ほど前に朝鮮半島から北海道にやって来た人達について、当時の新聞や公文書をもとに紹介します。	
古文書講座	はじめての古文書講座（全3回）第3回【入門編】	6月	9日	日	13:30	15:30	東俊佑	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	古文書が全く読めない、という方にオススメの入門講座です。用例や練習問題を解きながら、くずし字を基礎から学びます。	
ちやれんがワークショップ	縄文土器をつくる（全2回）第1回 つくる	6月	15日	土	10:30	15:30	右代啓視・鈴木琢也	講堂	どなたでも	40名（先着）	縄文文化の土器のつくり方を学び、それを「野焼き」して完成するまでを体験します。	
特別イベント	海野和男の生きもの写真のスヌメ	6月	16日	日	11:00	15:30	海野和男氏（生きもの写真リトリック実行委員長）	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	40名（先着）	海野和男氏に生きもの写真の魅力や撮影のコツを語っていただき、実際に野外で生きもの撮影の体験を行います。	
ミュージアムカレッジ	アイヌ語由来の標語・愛称を再考する	6月	23日	日	13:30	15:30	奥田純己（当館非常勤研究職員）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	最近広められている「アイヌ語由来」の表現をとりあげて、アイヌ文化を理解するうえでの問題を検討します。	
ちやれんがワークショップ	のこぎりでネームプレートをつくろう	6月	29日	土	13:30	15:30	青柳かつら・山原秀紀・池田貴夫・鈴木明世	講堂	どなたでも	20名（先着）	のこぎりで丸太を切って、ネームプレートをつくってみましょう。昔のおおきなこぎりにも挑戦！	
ちやれんがワークショップ	縄文土器をつくる（全2回）第2回 焼く	6月	30日	日	10:30	15:30	右代啓視・鈴木琢也、江別市セラミックアートセンター	江別市セラミックアートセンター	どなたでも	40名（先着）	縄文文化の土器のつくり方を学び、それを「野焼き」して完成するまでを体験します。	
古文書講座	古文書に親しむ（全3回）第3回【実践編】	6月	30日	日	13:30	15:30	三浦泰之	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	くずし字判読の基礎を卒業した方のための初級講座。当館所蔵の古文書などをゆっくり、じっくり読んでみます。	
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	「アイヌ語地名」とはなにか	7月	6日	土	13:30	15:30	児島恭子氏（札幌学院大学）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	「サッポロ」はアイヌ語地名？「アイヌ語地名」の歴史と意味とを、あらためて考えてみます。	
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	今井八九郎一人と業績	7月	7日	日	13:30	15:30	佐々木利和（当館非常勤研究職員）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	19世紀初めごろ北海道を踏査し、貴重な地図や記録を残した今井八九郎。その人物と資料の意義を紹介します。	
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	菅江真澄がみた北海道・東北の地名	7月	13日	土	13:30	15:30	石井正己氏（東京学芸大学）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	南北北海道と北東北をくまなく歩いた菅江真澄の日記と図鑑を読み解きます。	
特別イベント	北海道ジオパークまつり2019	7月	14日	日	10:00	16:30	道内ジオパーク関係者	講堂	どなたでも		道内ジオパークの関係者が一堂に集まり各地の魅力をPRします。楽しいワークショップがいっぱい！	
フォーラム	【特別フォーラム】ふるさとの（地名）をみつめて	7月	17日	水	13:30	15:30	関根健司氏、郷土今好古氏	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	平取と阿寒、それぞれの地域で「地名」をめぐる取り組みを続けてきた経験を語っていただきます。	
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	蝦夷通詞とアイヌ語地名	7月	20日	土	13:30	15:30	谷本晃久氏（北海道大学）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	上原熊次郎や加賀屋伝蔵などの蝦夷通詞の記したアイヌ語地名のすがたや意義についてお話しいただきます。	
ちやれんがワークショップ	石器をつくる	7月	21日	日	10:30	15:30	本吉春雄氏（湧別川流域史研究会会長）、右代啓視・鈴木琢也	北海道博物館正面入口の西側広場（雨天の場合正面入口付近あるいは講堂）	どなたでも	40名（先着）	旧石器文化から使われている白滝産の黒曜石を材料に石器をつくり、現代の道具と比較してみましょ。	

カテゴリー	名称（25字以内）	開催日時					担当・講師	会場・実施場所	対象	定員	内容（広報用50字）
		月	日	曜日	開始時間	終了時間					
子どもワークショップ	地図を楽しもう！A	7月	27日	土	13:30	15:30	鈴木明世・鈴木あすみ・遠藤志保、北海道地図株式会社スタッフ	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	40名（先着）	いろいろな「地図」を使って、私たちが住んでいる北海道について、楽しみながら知ってみよう！
子どもワークショップ	地図を楽しもう！B	8月	3日	土	13:30	15:30	鈴木明世・鈴木あすみ・遠藤志保、北海道地図株式会社スタッフ	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	40名（先着）	いろいろな「地図」を使って、私たちが住んでいる北海道について、楽しみながら知ってみよう！
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	伊能忠敬と間宮林蔵の蝦夷地測量	8月	4日	日	13:30	15:30	高木崇世芝氏（北海道史研究協議会会員）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	北海道の地図・測量の歴史で広く名が知られる伊能忠敬と間宮林蔵。二人の足跡や関係等を紹介します。
特別イベント	北海道地名クイズ王決定戦	8月	10日	土	13:30	15:30	池田貴夫・特展チームほか	講堂			北海道の地名にちなんだクイズ大会を開催。※詳細は、5月頃をめどに、当館のウェブサイトなどで告知いたします。
子どもワークショップ	草原の主・トノサマバッタをさがそう	8月	17日	土	10:00	12:00	堀繁久・表溪太・水島未記・鈴木あすみ、自然ふれあい交流館スタッフ	野幌森林公園内（自然ふれあい交流館集合）	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	40名（先着）	夏といえばバッタにキリギリス！ バタバタと音を立てて飛び巨大なトノサマバッタ、つかまえられるかな？
子どもワークショップ	ドライアイスであそぼう！	8月	18日	日	13:30	15:00	表溪太	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	30名（先着）	ドライアイスでロケットやシャーベットをつくってあそぼう！二酸化炭素と地球環境について、いろいろな実験から考えます。
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	アイヌ語研究からみた「アイヌ語地名」その1	8月	25日	日	13:30	15:30	佐藤知己氏（北海道大学）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	アイヌ語研究者の視点から、言語学からみたアイヌ語地名研究について語っていただきます。
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	アイヌ語研究からみた「アイヌ語地名」その2	9月	1日	日	13:30	15:30	切替英雄氏（元北海学園大学）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	アイヌ語研究者の視点から、言語学からみたアイヌ語地名研究について語っていただきます。
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	アイヌ語研究からみた「アイヌ語地名」その3	9月	8日	日	13:30	15:30	中川裕氏（千葉大学）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	アイヌ語研究者の視点から、言語学からみたアイヌ語地名研究について語っていただきます。
子どもワークショップ	アンモナイトを解剖しよう	9月	14日	土	13:30	15:30	栗原憲一・園谷昂史	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	30名（先着）	ホンモノの化石やアンモナイトと似た生き物をじっくりしらべて、アンモナイトがどんな生き物だったのかを考えてみよう。
連続講座「アイヌ語地名と北海道」	古地図と歩く	9月	15日	日	13:30	15:30	和田哲氏（あるた出版編集部・『Otone』編集デスク）	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	雑誌『Otone』編集デスク・街歩き研究家の和田哲さんに、古地図と歩く魅力を語っていただきます。
ちゃれんがワークショップ	大人のための「アイヌの楽器 まったく初めての体験」	9月	29日	日	13:30	15:30	甲地利恵	講堂	大人向け（中学生以上）	10名（先着）	アイヌの楽器「ムックリ」「トンコリ」を全く知らない大人の初心者が対象の体験講座です。
子どもワークショップ	ガリ版でいんさつ屋さん！	10月	6日	日	13:30	15:00	会田理人、鈴木明世	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	10名（先着）	ガリ版は、ひと昔前に使われていた印刷方法です。実際の道具を使って印刷し、昔の技術を体験してみよう！
特別イベント	エゾシカまつり	10月	13日	日			（未定）	講堂	どなたでも		
シンポジウム	エゾシカに関するシンポジウム	10月	20日	日			（未定）	講堂	大人向け（中学生以上）		
特別イベント	ミュージアムコンサート アイヌ音楽ライブ	11月	3日	祝	12:00	13:00	MAREWREW（マレウレウ）	記念ホール	どなたでも	100名（先着）	アイヌ民族の伝統的な歌・舞踏を忠実に再現・伝承している女性ヴォーカルグループ「マレウレウ」が、さまざまな楽曲を演じる音楽会です。
文化の日講演会	シカとどう付き合うのか【仮】	11月	3日	祝			高槻成紀氏（麻布大学いのちの博物館）	講堂	どなたでも		【仮】シカとはどんな生き物なのか、その行動と植物との関係は？ 長年のシカ研究から付き合い方を考えます。
自然観察会	紅葉の森で動物を探そう！	11月	9日	土	10:00	12:00	表溪太・水島未記・堀繁久、自然ふれあい交流館スタッフ	野幌森林公園内（自然ふれあい交流館集合）	どなたでも	40名（先着）	秋の森を歩いてエゾシカなどの動物の痕跡を探しましょう。
アイヌ語講座	アイヌ語 はじめの一歩	11月	10日	日	13:30	15:30	遠藤志保	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	アイヌ語って日本語と似てるの？ どのくらい違うの？ アイヌ語をゼロから知りたいひとのための講座です。
ちゃれんがワークショップ	稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！	11月	17日	日	13:30	15:30	池田貴夫・舟山直治	講堂	どなたでも	40名（先着）	みんなで協力して稲わらからくわをつくります。最後は結びつけて長くして、巨大人間あやとりに挑戦します。
ミュージアムカレッジ	開拓使の頃のエゾシカと人（仮）	11月	24日	日	13:30	15:30	山田伸一	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	明治初期の北海道でシカがどのように利用されたのか、激減して禁猟に至ったのはなぜか、文書から探ります。（50字）
ちゃれんがワークショップ	鳥のつばさの標本をつくろう！	11月	30日	土	13:30	15:30	鈴木あすみ、表溪太	講堂	やや大人向け（小学生以下は保護者同伴）	10名（先着）	剥製や骨格標本、鳥の標本にはいろいろなものがあります。鳥のつばさの標本と一緒に作りながら、構造を学んでみましょう！
子どもワークショップ	文字であそぼう♪ 消しゴムはんこづくり	12月	1日	日	13:30	15:00	田中祐未・三浦泰之・水島未記	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	30名（先着）	好きなものや、自分の名前のかたちをもとに、消しゴムをほって、自分だけのハンコをつくりま
子どもワークショップ	貝の化石で標本をつくろう！	12月	7日	土	13:30	15:00	園谷昂史・栗原憲一、畠誠氏（北広島市エコミュージアムセンター知新の駅）	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	20名（先着）	砂の中から貝の化石を探しだして、ホンモノの化石図鑑をつくろう！
アイヌ語講座	アイヌの物語を聴いてみよう	12月	8日	日	13:30	15:30	大谷洋一	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	アイヌの物語を聴いてみませんか。お話の内容とアイヌ語の解説付きで、節をつけて語るお話を2つ紹介します。
ミュージアムカレッジ	歴史の中の「声」を聴く：北海道アイヌ協会創設のころ	12月	15日	日	13:30	15:30	小川正人	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	戦後間もない1946（昭和21）年に設立された北海道アイヌ協会。初代理事長の演説や、活動に関わった人の回想など、人々の「声」を通して時代のすがたを探ります。

カテゴリー	名称（25字以内）	開催日時					担当・講師	会場・実施場所	対象	定員	内容（広報用50字）
		月	日	曜日	開始時間	終了時間					
ちゃれんがワークショップ	博物館で新年祈願!？日本の画材で絵馬づくり	12月	22日	日	13:30	16:00	田中祐未・三浦泰之・水島未記	講堂	どなたでも	30名（先着）	絵馬の歴史をひもときながら、日本の伝統的な画材でオリジナル絵馬をつくります。
アイヌ語講座	じっくり！「見て聞いてアイヌ文化の世界」	1月	11日	土	13:30	15:30	遠藤志保	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	総合展示室内では途中までになっているアイヌのお話。解説と一緒に“最後まで”聞いてみましょう。
特別イベント	博物館のバックヤードを見てみよう	1月	18日	土	11:00	14:00	杉山智昭・山際秀紀	会議室	やや大人向け（小学生以下は保護者同伴）	10名（抽選）	博物館の普段の活動の見えない部分を紹介し、一般に公開されていない収蔵庫等も特別に見ていただきます。
子どもワークショップ	雪のなかで宝さがし	1月	25日	土	13:30	15:00	舟山直治・池田貴夫	講堂	子ども向け（小学生／中学生、小学生以下は保護者同伴）	40名（先着）	雪のつもったヒミツの場所で宝さがし！指令書の謎を解き、宝のありかがわかったら、昔の道具をつかってみごと宝を掘りだそう！
特別イベント	博物館のバックヤードを見てみよう	1月	26日	日	11:00	14:00	杉山智昭・山際秀紀	会議室	やや大人向け（小学生以下は保護者同伴）	10名（抽選）	博物館の普段の活動の見えない部分を紹介し、一般に公開されていない収蔵庫等も特別に見ていただきます。
ちゃれんがワークショップ	羊毛を紡ぐ①	2月	8日	土	10:30	15:30	尾曲香織・会田理人・池田貴夫	講堂	大人向け（中学生以上）	10名（先着）	ふわふわの羊毛の毛が糸になるまでを体験してみませんか？ あなただけの糸を紡いでみましょう。
ちゃれんがワークショップ	羊毛を紡ぐ②	2月	9日	日	10:30	15:30	尾曲香織・会田理人・池田貴夫	講堂	大人向け（中学生以上）	10名（先着）	ふわふわの羊毛の毛が糸になるまでを体験してみませんか？ あなただけの糸を紡いでみましょう。
ミュージアムカレッジ	渡島半島に暮らしたアイヌ民族の歴史と文化	2月	16日	日	13:30	15:30	大坂拓	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	明治初期に開拓使函館支庁管内に暮らしたアイヌ民族約700人。彼らがたどった歴史を民具と文書からたどります。
自然観察会	雪の森で動物を探そう！	2月	29日	土	10:00	12:00	表溪太・水島未記・堀繁久、交流館スタッフ	野幌森林公園内（自然ふれあい交流館集合）	どなたでも	40名（先着）	雪の上のこされた足跡を追いかけて、冬の森の動物たちの行動を推理してみよう！
ミュージアムカレッジ	じっくり見よう！アイヌの着物	3月	1日	日	13:30	15:30	亀丸由紀子・遠藤志保	講堂	大人向け（中学生以上）	40名（先着）	北海道博物館所蔵のアイヌの民族衣装を蔵出しします。見比べながら、アイヌの着物についてゼロから学んでみませんか？
ミュージアムカレッジ	択捉島紗那の学校と高城重吉	3月	8日	日	13:30	15:30	小川正人	講堂	大人向け（中学生以上）	80名（先着）	1880（明治13）年に開拓使が択捉島紗那に設置した学校を中心に、この地域に生きたアイヌの人々の歴史を考えます。

